

村松陸軍少年通信兵学校

(五泉市)について

伊藤英世

桜の名所で有名な五泉市村松公園に戦没陸軍少年通信兵慰霊碑がある。

村松陸軍少年通信兵学校が開校したのは一九四三年(昭和18年)10月1日である。

いまの東村山市にあつた通信兵学校が空襲にあつた危険もあり2つに分かれ、その一つが村松に開校したという。

一九四三年12月1日に第11期生の入校式があつた。4中隊八〇〇名余りと年表に記されている。

その生徒が卒業をする前に戦地に行くことになり、彼らに乗せた輸送船団が潜水艦の攻撃をうけ、船底に乗り込んだ通信兵は船と共に沈没し、亡くなったという。東京と村松の通信兵をあわせ、八一二柱の慰霊の

碑である。

年表には一九四四年(昭和19年)の1月1日には村松から五泉の八幡宮まで雪中行軍をしたと書いてある。

同年2月13日から通信技能差により受信教育始めると書いてある。

モールス信号や暗号などを教えたわけだから、全国から集められた相当優秀な生徒であると考えられる。証言のYouTubeを見ると蒲原鉄道が通っていたので、電磁気学を教える先生がいたという。

同年6月1日には第12期生、4中隊八〇〇名余の入校式があつた。

同年10月1日には開校記念日。農村に勤労作業、夕刻、練兵場で大会食と記されている。

会食のシーンが写真にあり、菅名岳方面から満月が写っている。

同年11月10日には11期一部繰り上げ卒業生の卒業式が行われている。三一五名とある。

その優秀な卒業生は特演者ということで翌日出陣式が行われている。

一九四五年3月5日には第11期生の卒業式があった(約四五〇名)。3月11日には出陣式が行われている。

同年4月1日には第13期生の入校式が行われ、約八〇〇名が村松校のみ入校している。

しかし、戦況はますます悪くなり、6月17日には愛宕山坑道掘削作業や7月21日には飛行場設置作業をしている。前の日の7月20日には新発田、新潟市空襲と書いてある。

8月1日には長岡空襲があり、救援隊を出動させている。

8月15日は玉音放送、8月29日は復員式とあり、帰郷がはじまった。

以上、年表に書いてあることを拾ってみた。

五泉市の図書館にはDVDの少年通信兵に関する講演の映像や冊子の資料がある。

インターネットの時代、これらの文章記録はネット上に公開されている。「メロウ伝承館」というサイトである。検索で「村松」といれると少年通信兵に関する資料などをみることがができる。

アドレスは、<https://www2.mellow-club.org/den sho/index.php>

その中から引用してみたい。以下の記述がある。

大口光威(みつたけ)さんの「村松の庭訓を胸に散華した少年たち」(村松萬葉 村松萬葉刊行会 2009年)より。

十月一日、折しも開校一周年を記念して仲秋の名月を愛でる「月見の宴」が催され、学校に隣接した練兵場の芝生の上に沢山の机が持ち込まれると共に、学校長以下全幹部出席のもと、課業を終え体操衣袴をまとった生徒千六百名が整然と居並びました。

やがて、宴が進み、軍歌も「山紫に水清き」から「月下の陣」に移るに至って、これを境に皆の頬が一様に濡れて行きました。

「われ、父母や兄弟を思わざるにはあらねども、君

に捧げし身にあれば：」

自ら志願した途ではありましたが、故郷の家族を思い、来年のこの月を何処の戦場で仰ぐかを想像したとき、誰もが、こみ上げる感情の高ぶりを抑えることが出来なかったのです。

事実、翌月の五日、二期生中の三百余名に対して繰上げ卒業が命じられました。しかし、当時、卒業は即出陣を意味していました。十日後、他の兵員と共に三隻の輸送船に分乗して南方に向け門司港を出港した彼等は、待ち構えていた敵潜水艦によって、うち二隻が五島列島沖或いは済州島沖で相次いで撃沈され、その多くが海の藻屑と消え去りました。生き残った者の証言によれば、夜の海中に投げ出された彼等は始めのうちこそ漂流する木片に楳り力一杯軍歌を唄うなど、必死に気力を奮い立たせていましたが、初冬の海は冷たく、一人、また、ひとり、暗い波間に消えていき、或いは一瞬、母の幻影でも過ぎったものか、其処此処に「お母さん」の声も聞こえたと言われています。——でも、これらの事実は軍事機密として固く秘匿され、私達が

これを知ったのは戦後のことでした。彼等の年齢は十七、八歳、練磨を重ねた技を何一つ試すことなく、その無念さは如何許りだったでしょうか。

また一方、辛うじて難を免れフィリピンに辿り着いた者もまた、其処に待っていたのは間断ない爆撃と深刻な飢餓やマラリア等の悪疫であり、悪戦苦闘、その多くが彼の地で玉碎し、再び村松の土を踏むことはありませんでした。

やがて終戦。これを機に、わが国は戦争の放棄を宣言し、平和国家への道を歩み出し、私達生き残った者による慰霊の行事も始まりました。——、学校跡が望める村松公園の小高い丘と遭難地点近くの平戸岬における慰霊碑の建立、春秋の参詣会と三年毎の慰霊祭の開催等々。しかし、これも、その後の関係者の高齢化には逆らえず、平成十三年の合同慰霊祭を最後に公式の行事は幕を閉じ、今では個人単位の慰霊に代わっています。

新潟日報にも時々記事がのる。最近の記事は下記の

サイトにある。

村松で学び、重責担った若い命悼む 新潟五泉市で
少年通信兵学校卒業生の慰霊祭―新潟日報デジタルプ
ブス (nigata-nippo.co.jp)

[https://www.nigata-nippo.co.jp/articles/-/
295306](https://www.nigata-nippo.co.jp/articles/-/295306)

YouTubeにも五泉の通信兵学校出身の方の証言があ
る。

1945【005】田村利男さんのお話 (youtube.
com)

<https://www.youtube.com/watch?v=SOcUuv-STy8>

参考資料 (website)

新潟の戦争遺跡・戦跡 く先人たちの足跡く (j-rakud
a.net)

<https://ashiato.j-rakuda.net/index.html>

(5-2) ひびき 所員

こんな農業に誰がした、

やっていらんないよ 政治を変えよう

私の住む果北の山裾でも一区画が50a?1haなど
と広い田んぼが広がり、一面に苗が青々と育ってい
る。すでに米寿を迎える老農が杖をつきながら、田
んぼの水回り、秋にはコンバインで稲刈りしている
のです。日中はほとんど若い人は見かけません。農
業従事者の平均年齢は今や70歳です。しかも稲作農
家の時給はなんと10円と報じられ、「やっていらん
ない」よ。

今国会で「食料・農業・農村基本法」が改正され、
これまでの自給率の目標が掲げられず、食料確保の
ために安定的な輸入に依存するということです。しか
も、「不足時措置」を新設、生産に従わない時は罰
則を課す。まさに「新しい戦前」です。「裏金」で
ホクホクの政治家を許す事は出来ない。

(内山)